

平成25年白老町議会産業厚生常任委員会協議会会議録

平成26年 3月18日(火曜日)

開 会 午後 1時00分

閉 会 午後 1時43分

---

○会議に付した事件

1. 地域人づくり事業(緊急雇用創出推進事業)について

---

○出席委員(7名)

委員 長 西 田 祐 子 君	副委員 長 広 地 紀 彰 君
委 員 氏 家 裕 治 君	委 員 大 淵 紀 夫 君
委 員 松 田 謙 吾 君	委 員 吉 谷 一 孝 君
委 員 及 川 保 君	

---

○欠席委員(なし)

---

○説明のために出席した者の職氏名

産 業 経 済 課 長	石 井 和 彦 君
産 業 経 済 課 主 査	鵜 澤 友 寿 君
産 業 経 済 課 主 事	鈴 木 哲 君

---

○職務のために出席した事務局職員

主 査	本 間 弘 樹 君
書 紀	小 山 内 恵 君

---

## ◎開会の宣告

○委員長（西田祐子君） 産業厚生常任委員会協議会を開催いたします。

（午後 1時00分）

---

○委員長（西田祐子君） 本日の協議事項は、地域人づくり事業、緊急雇用創出推進事業について、産業経済課から説明を受けたいと思います。産業経済課よろしくお願ひいたします。担当の産業経済課長、鶴澤商工労働観光グループ主査、それと鈴木商工労働観光グループ主事、3名の出席いただいておりますので、どうぞよろしくお願ひします。石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） それではご説明をさせていただきます。地域づくり事業（緊急雇用創出事業）についてでございます。皆様のお手元にお配りしてございます、ちょっと厚めの資料でございますけれども、これにつきましてご説明をさせていただきたいと思ひます。まずこの事業の概要についてでございますけれども、事業の創設とそれから内容でございますが、こちらにつきましてはこちらにも書いてございますが、循環型の好循環型の実現のために経済対策として去年の平成25年12月5日の閣議決定により、女性の躍進の推進、それから若者と無業者の就職支援、生涯現役社会の実現に向けた高齢者の推進等を通じた雇用の拡大を図るといふこととあわせて賃金引き上げ、それから非正規雇用労働者の正社員化などの処遇改善を推進するといふことで、地域の実情に応じた創意工夫による多様な「人づくり」を支援するための事業でございます。この事業につきましては、国の緊急雇用創出事業臨時特例基金を積み増しされたものであり、北海道といたしましてもこれによりまして緊急事業の同様に基金の事業として位置づけられています。これにつきましては地域における人材の育成、それから雇用の拡大の取り組みを支援するといふことで、当該の事業が創設されたといふことになってございます。今回の新事業につきましては、失業者の就職に向けた支援であります「雇用拡大プロセス」と在職者に対する処遇改善に向けた「処遇改善プロセス」の2つのプロセスで構成されてございます。人材育成に重点を置かれておきまして、特に雇用拡大プロセスにおきましては、OJTやOFF-JT等の方法を組み合わせた「人材育成計画」等の策定も定められておきます。

2の事業費でございますが、雇用拡大プロセス、これは白老町の枠配分でございますが、1,694万3,000円の枠配分でございます。それから処遇改善プロセスでございますが、これ配分は指定されてございません。北海道から逐次の募集によるものとなっております。こちらの処遇改善プロセスにつきましては関係機関及び内部協議の結果、道からの情報（事例等を参照）のみでは具体的な計画等がなかなか示せないといふことがございまして、現時点では非常に難しいものがあるといふことで、今回は道それから近隣の動向踏まえながら今後これにつきまして検討していきたいといふふうを考えてございます。

3番目の説明資料でございますが、地域人づくり事業につきましては、別紙の1-1から1-3、それから地域人づくり事業の活用事例でございますが、別紙2-1から2-19となっております。こちらにつきましては、後から説明をさせていただきます。

2の募集等の経過についてでございます。1月21日、地域人づくり事業説明会で、道庁が主催で改正をしております。これにつきましては担当者の2名こちらのほうに出席をさせていただきます。2月12日、同事業の募集及び実施意向調査について胆振振興局から通知をこちらのほうに受けてございます。2月18日、処遇改善プロセス実施意向調査及び役場掲示板及び関係機関等に周知をしております。2月19日、上記の事業を先ほどの処遇改善プロセスでございますけれども、見送ることの回答を胆振総合振興局に報告をしております。2月21日、雇用拡大プロセスの募集開始につきまして関係機関及び各課周知、掲示板、町のホームページ等に掲載をしております。3月5日、雇用拡大プロセスの募集締め切り、1件の募集がございました。3月11日、内部との協議をいたしまして、この1件について採択をしております。3月12日、同事業の応募分1件を胆振総合振興局へ提出をしております。

3でございます。第1次募集応募事業についてでございますが、まず(1)の事業名でございますが、虎杖浜、竹浦観光誘客拠点整備に係る人材育成支援事業、(2)の資料でございますが、緊急雇用創出推進事業、個別事業表他(様式3、4)でございますが、別に配られております2枚ものの様式でございます。そちらのほうも後ほどご説明をさせていただきたいと思っております。4の今後の予定でございますが、採択の結果が3月下旬を予定しておりますので、これを踏まえまして以後の日程調整をし、予算措置等を検討していきたいというふうに考えてございます。配分額の執行残につきましては、2次募集等がございますので、こちらに対応しながら北海道との調整をしていきたいというふうに考えてございます。

それでは次のページの1-1でございますけれども、こちらのほうにつきましては、先ほど説明したのももっと詳細にちょっと書いたものがこちらの1-1から1-2、1-3というふうになってございますが、ちょっと主だったものをこちらのほうから抜粋してご説明したいと思っております。

1-1でございますが、こちらにつきましては、2の道の予算執行の(3)でございますが、目標一人(1社)当たりの事業費の目処額と上限額でございますけれども、これにつきましては、目処額につきましては200万円、上限額が300万円、これは一人もしくは1社ということになってございます。それから次のページの1-2でございます。こちらにつきましては下のほうの失業者の雇用を伴う事業を実施する場合の条件ということでございますけれども、こちらにつきましては失業者であれば従前の基金事業で雇用されたことのある失業者も対象となるということになってございます。なおかつ新規に雇用する労働者の雇用期間は1年以内とし更新は不可となっておりますが、被災等におけるものにつきましては2回以上の更新が可能ということになってございます。それから下の類似事項のところでございますけれども、こちらにつきましては事業の対象とならない事業でございますけれども、市町村が直接行う事業、これはここにも書いてありますとおり、非常勤の看護師それから補助教員を学校に配置するのは、これは対象にはないということでございます。それから市町村がすでに実施している既存事業の振りかえた事業につきましては、これも対象にはないということになってございます。

次の1-3でございますが、こちらにつきましては建設事業と土木事業につきましては、こちらに

書いてあるとおりほとんどの事業等がならないということになってございます。なおかつ軽易な草刈り等、それから単純な清掃等についても、この事業の対象にはならないというふうになってございます。あと、こちらの中に書いてありますイベント等、それから季節による事業、それから単純な調査等データベース化等につきましても、事業の対象にはならないということになってございます。一人当たりの失業者の労働日数でありますけれども、45日以上とすることが条件というふうになってございます。それ以降の地域人づくり事業の活用事例等につきましては、こちらのほうに載ってございますので、ご参照していただければというふうに思っております。

それでは別紙の26年度の事業の様式3-3、先ほどの緊急雇用の関係の2枚つづりの様式でございます。こちらのほうについてちょっと説明をさせていただきたいと思っております。こちらの事業につきましては、先ほど事業名の名称が虎杖浜・竹浦観光誘客拠点整備に係る人材育成支援事業でございます。分野区分につきましては観光業ということになってございます。必要性、緊急性でございますけれども、2020年に民族共生の象徴となる空間「国立博物館」が開設されることを契機に、地域における観光誘客に向けたさまざまな取り組みを展開することが急務であると考えてございます。その中で海外からの観光客が増加する傾向があること、また国内外を含め観光消費や滞留・滞在機能を向上するために、本町の特性を生かした観光案内所などの拠点（サテライト機能）の整備し、観光案内人としての人材育成が必要であり、地域の関係機関と連携した中で一定の多言語に順応した環境整備に取り組むことを目的としてございます。

事業内容でございますが、白老地区のサテライト施設として竹浦・虎杖浜地区の既存施設の活用し、案内機能整備のための人材を雇用します。外国人の受け入れ等における観光案内の習得及び多言語対応のための表記やガイド養成を行います。町内を周遊するためのツアーや観光ルートをコーディネートできるよう人材育成を行います。なおかつOJT、周遊ツアー、観光ルートの企画立案に関する業務等、それからOFF-JT、外国人案内のための言語習得セミナーへの参加等を実施する予定でございます。目標数値でございますが直接雇用は2名でございます。就業者数も2名ということになってございます。雇用創出のところでございますが2名でございます。一人10カ月、6月から始まりまして3月31日までを予定してございますので、10カ月22日間ですので220日、2人ですので延べ440日の人数というふうに考えてございます。雇用創出効果でございますが、先ほどもご説明した通り2名（1名ずつ）の2名ですので、22日の10カ月で440日の日数ということになってございます。事業費の積算の考え方でございますけれども、こちらにつきましては人件費、それから交通費、社会保険等含めまして人件費の合計が332万4,520円、それから事務費でございます。パソコンのリース料、レンタカーのリース料、それからガソリン等、観光案内所の看板それから設置、印刷等で、それからOJTの英会話等の多言語及び観光等人材育成費用それからOFF-JTの講師派遣、それから研修参加費、消費税、管理費等含めまして事務の合計が266万9,060円、事業費の総額でございますが、599万3,580円となっております。人件費の新規事業者の見込みでございますが、332万5,000円、総事業費は600万円となっております。事業開始につきましては、26年6月1日、事業終了年度につきましては27年3月31日の10カ月ということになってございます。各種の税金の平均につきまし

ては、ないということになってございます。次のページにつきましては概略をまとめたものでございます。以上で説明等終わらせていただきます。

○委員長（西田祐子君） 全部でしょうか。どうもご苦労様でした。今ほどこの地域人づくり事業について説明ありましたが、委員の皆さんのほうから特に聞いておくことございますか。氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。この事業内容、今後の取り組みについては今の説明で十分わかりましたし、2020年に向けての交流人口含めてそういった対応策としての事業としてはすごくいいものだと思います。ただし国からの予算措置には1,600万円白老町枠あります。今後の2次募集等々という話は今お伺いしましたけれども、具体的にこういった人材育成がこの緊急雇用1年間ですよ、こういう人たちが2020年までの間にどういった、1年終わったらその人たちはどういう活動をしていく形になるのか、白老町としてもしっかりとその方向性を定めておかないと、たった1年間だけで終わってしまって、そのあとに続かないのであれば何にもならないですよ。結局今回そういったいろいろなプロセスを学んで、それが5年後、6年後に生かされるような人たちになっていかなければいけないと思うのですけれども、その辺の流れについてはどういう考え方をしているのか、また執行残の部分の1,000万円ぐらいのお金が2次募集というか、3次募集というそういった事業費、いずれにしても26年度中に消化しなければいけないお金ですよ。その辺についての考え方をもう少し詳しく聞かせていただきたいのですけれども。

○委員長（西田祐子君） 石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 氏家委員のご質問でございますけれども、こちらにつきましては今後の予定としましては今、残っているのが約1,000万円くらい残ってございます。こちらにつきましては2次募集をかける予定になってございます。それと以降また残った場合には一応この計画の道のほうの国のほうの計画なのですけれども、ほかの市町村もお金がほかに余った状況が出てくると思うのです。うちみたいな感じで使い切れなとか出てくると思うのですけれども、それについては一応上乘せは考えていないという状況で決められた枠配分で執行してもらおうというような形をとりたいということで話を伺っております。ただまだ実際にこれが最後まで行くかどうかというのは道のほうでもまだ協議をしているという最中だと聞いておりますので、うちのほうもなるべくいろいろな事業を考えながらやっていきながら、2次募集になるべく万度にお金を使えるような形で進んでいきたいというふうには考えてございます。それから雇用された人が今後どうなのかということなのですけれども、こちらにつきましては、この事業だけで終わらせるというふうには考えてはございません。なおかつこの事業の中でそれぞれのところで事業者さんとの観光協会等ありますので、そのところしっかりとお話ししていきながら、この人方の雇用を確保していきながら事業を進めていきたいというふうには考えてございます。

○委員長（西田祐子君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。1番大事なことは今回のこういった事業を、こういった人たちを人材育成していくことが大事なことなただけでも、これが2020年にしっかりした現場で対応できる人に育てていかないといけないということが1番大事なことだと思うのです。そうであれば今回1,600

万円という予算がついた1番大事なのはまちとしてこの2020年をどう迎えていくのかという姿勢がちゃんと整っていないと、こういう形をまちが考えているのだというものが無いと、いくらお金がついたって、これは使い切れないのであれば何の意味もないと思うのですよ。その辺は今後の今回の町長の執行方針の中にもいろいろあって、今回の事業取り組みも説明を受けているので、その部分は早期にちゃんとまちとしての考え方を固めないでだめだと思っただけです。だからこのお金をこう使いたい、これでは足りないというぐらいのお金の使い道というのがちゃんとないと、いくらお金がついたって、使い切れないで終わってしまうのではどうしようもないと思うのです。そこだけは早期にまちとして2020年をどう迎えていくのか、そのためにどういった人材が必要なのか、どういったものが必要なのかということは、まちの考え方しっかり持たないと、場当たり的なものではどうしようもないような気がするのです。ですからその辺だけはしっかり今後も取り組んでいってもらいたいなど。それが一つの要望といいますか、私からの今回の執行方針、またその執行予算についての考え方なのですけれども。もし何かあれば言ってください。

○委員長（西田祐子君） 石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 今の氏家委員のご意見でございますけれども、そのとおりで思っております。今も産業経済課の中でもいろいろと事業展開を進めていく中で、いろいろな事業に取り組んでいこうというふうに考えてございます。その中でこれがうまくいくかどうか別にしましても、本当に2020年それから地域の活性化、経済の活性化に向けていろんな事業取り組んでいきたいというふうには考えてございますので、使えるものは本当に真剣に使っていきたいというふうに考えてございますし、事業も進めたいというふうに考えてございます。

○委員長（西田祐子君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） わかりました。今回このいろんな計画がこれからも緊急雇用対策、今に始まったことではなくて、前からずっと来ていますよね。来て、来たといってそこから考えていく、考えてはいるのでしょうけれども、やっぱりまちとしては財政がいくら厳しかろうが何しようが、こういった目標に向かってこういった事業が必要だと思う、こういった人材が必要なのだというものは、ある程度整理しておかないと、それは財政が苦しいだとか裕福だとかという問題ではなくて、そのときに来たか、やっとなってきたかという思いですぐそこに事業に取りかかれるようなそういう準備体制というのが今後必要になってくると思うのです。財政が大変だから何もできないではなくて、そういったことは、今回はこう言った分野だけど、この分野以外のことでもそういったまちの考え方というのは必要です。ですからぜひ今課長が言われたとおり、まちの考え方だけは今後しっかり関係機関と連携取りながらでもやっていっていただきたいと思うのでよろしくをお願いします。

○委員長（西田祐子君） ほかの委員さんございませんか。及川委員。

○委員（及川 保君） 及川です。今の説明で十分理解したのです。理解はしたのだけれども、国もこういう単発でこういった補助事業組むということ自体が私も疑問をいつも感じていることなのですけれども、今氏家委員のほうからも話ありましたように、単発でやるのはいいのだけれど、補助をつけてやるのはいいのだけれど、次年度はどうするのかということが何も今まで、どういう事業もそう

なのです。これはおかしくないですか。補助を受けるためだけの事業であってはいけないのです。単発で。この事業をこういった事業を、今観光誘客の部分は私は非常に大事だと思っています。今氏家委員が言っていたように、継続してこれがいかなないとただ補助金を受けるためだけの事業になってしまいます。これずっとそういうものが見えてしょうがないのです。きのうもおととも議論ありました。石井課長一番わかっているはずなのだけれど、これはみんな感じていることだと思います。先ほど国も悪いと言ったけれど、そこにはきちっとした長期の、中長期のこの誘客に関するしっかりとしたものが見えてこない、結局はこの単発で終わってしまうということがずっと繰り返されているのです。これを何とかしなければだめです。そこには何も計画性あるのかもしれないけれど、繰り返すけれども単に補助を受けるための、国は補助をつけるよと、それを1年何とか使わなくてはならない、こういうための事務であってはいけないと思うのだけれども、課長、これをどう考えますか。

○委員長（西田祐子君） 石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 及川委員の質問でございますけれども、こちらにつきましては今回この事業につきましては、内閣総理大臣が循環型をやってくれということで、急にこうなった事業というふうに国会のほうも審議されているみたいなのですけれども、こちらにつきましては今までも及川委員が言ったように単発で終わっているというのは現実であります。今後はこの事業も含めてしっかりと計画をつくって、それに沿って人材を育成していく形をとりたいと思っています。今年度26年度につきましては、今回の議会等でもご説明しています産業振興計画等にしっかりといろいろな事業も含めていながら、人材育成も絡めながら進めていきたいということでございまして、単発で終わるような事業にしたくないというふうに考えてございまして、そのような手法をとっていきたいと思っております。

○委員長（西田祐子君） よろしいですか。ほかの委員さんはございせんか。大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 大淵です。2次募集の締め切りが4月18日、見通しはどうですか。2次募集の見通しは枠配分で決まってきたから、流すのかどうかということになってしまうのだけれど、見通しはどうですか。

○委員長（西田祐子君） 石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 募集については今もそのまま掲示板等には出してございますが、今の段階では2次募集している段階ですけれども、それぞれの担当課にも振っているのですけれども、なかなか情報としてはこちらのほうに来ていないというのが今の状況でございます。なおかつそれではそのまましておくかということにはしたくないので、こちらもそう少し内容等考えながらそういうことができるような課のほうにアプローチをしていきたいというふうには考えてございます。

○委員長（西田祐子君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 大淵ですけれども、今来年、再来年どうするのだというお話もございました。現実的にはこれ町村にどれだけなじむのかということもあるので、町村で基金として積めるのであれば一番いいのだけれど、そうならないですね。それで2次募集で流したら、それでなしというのであれば、全然雇用効果も何もないということになってしまいますよね。ところが1年で辞めるという

ことになれば、きのうのような議論の格好になるわけです。だから、実行性が上がらなければいくらいい政策だって言われても、町村に出れば何もならないのです。これが村なんかに行ったら、多分音威子府だとか、加茂井内なんかに行ったら、これはやれないのではないですか。そういうところができないような事業では、大きいところだけが余ったやつまた全部2次募集、3次募集で持っていきながら話にならないから、こういうことは国にきちっと、担当課ではなくて、行政、自治体として物をきちっと申すと。実情に合った形でやりなさいというような意見を上げさせなければだめです。それをちゃんと担当課から町の行政に言って上げさせるようにしないと、私は小さい町は、白老より小さい町は本当に事業がないですよ大体できないでしょ。そこななかったら何の意味もないのだから、そこはちゃんと上のほうに、理事者に言わせるようにしてください。

○委員長（西田祐子君） 石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 今の大渕委員のご意見ですけれども、こちらにつきまして今のところ私のほうで押さえている胆振管内の事業の提出されている件数というのは数件と聞いています。なかなか事業が募集をしているのですけれども、これにうまくマッチングしてできるようなものがないというのが現状みたいです。特にうちのほうがよくても処遇改善なのですけれども、これは非常に難しく、なぜ難しいかという、賃金を上げてそれがなおかつといったときに、次年度以降もそのままいかなければいけないということで、今年度だけやって次年度以降はやりませんということにはなりませんので、なかなか企業さんが事業に対して乗らないというのが現状だと聞いております。この事業に対しては難しい事業だというふうに聞いております。ですから、できるということであれば大企業は該当にならないみたいなのですけれども、中小ということになっていますから非常に難しいかなと思っていますし、今のご意見に関しては理事者ともしっかりそこらへんを協議しながら道なり国なりに意見等述べるような形でやっていきたいというふうに思っています。

○委員長（西田祐子君） 松田委員。

○委員（松田謙吾君） 2次募集とかとやっているけれども、これは虎杖浜・竹浦地区観光誘客拠点整備、なぜこれは竹浦と虎杖浜だけなのですか。なぜ竹浦と虎杖浜だけに限定しているのですか。宇白老だっていいのではないですか。この前のなんだかの事業もそうですよね。竹浦どうのこうのと。なぜこうやって限定しなければいけないのか。

○委員長（西田祐子君） 石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 今のことなのですけれども、それにつきましてはこれは観光協会に委託する事業と考えてございます。観光協会がありますのでこちらのほうにつきましては、観光協会の職員がこちらのほうを担っていくという形なのですけれども、竹浦と虎杖浜については、観光協会の職員がそこまで出向いてなかなかそういう事業ができないというのが現状でございますので、今回その2つの地区、特に温泉抱えていますので、こちらのほうもちょっと重点的にやっていきたいということで、虎杖浜と竹浦というふうにして考えて組み立てた事業でございます。

○委員長（西田祐子君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 1点だけ。今回のこの雇用については、新規の白老町に在住する人たちの中



から選ぶのだと思うのだけれども、若い女性だとかは子供さんを抱えながら今生活している人なんか  
がいて、こういったものに募集しようと思ったときに、その保育の関係だとか、そういったものが支  
障になってなかなか私たちは無理なのかしら、みたいなことを考えている方もいらっしゃるのではない  
かなと思うのだけれども、今大淵員も言ったけれど、幅広くそういった人たちを吸い上げなければ、  
人というのははっきりいって集まらないですよ。そういった部分についての例えばその保育面だど  
か、女性に対しての生活環境を支援する形というのは、実際とられる、今回はこの予算の中身を見ると、  
そこまでは書いていないけれど、実際にそういった人たちの募集があった場合には、そういう支  
援の仕方というのは何かあるのですか。この予算残の中で支援する仕組みというのは取れるのだらう  
か。

○委員長（西田祐子君） 石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 今の氏家委員の質問でございますけれども、こちらにつきましては  
今のこの事業中ではそういう形をとるとするのは難しいかなというふうに思っておりますし、この  
緊急雇用につきまして特に女性に対して一生懸命やっているから女性も役所についてやりましょうと、  
表題はありますけれども、それに対して中身が今言ったように、子育てをしている人だとか、若い世  
代の人方がそれに対して支援があるかといふとなかなかないというのが現状でございます。それでそ  
の中でそういうようなことをできるような形でこちらのほうも要望していきたいというふうに考えて  
ございますし、こちらの中身についてある程度そういうのができるのであれば、この事業の中で組ん  
でいけるものであれば組んでいきたいというふうには考えているのですが、なかなか現時的には難し  
いというところが、今の段階でございます。

○委員長（西田祐子君） 氏家委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。先ほども物事というのはずっと関連して考えなければいけないと  
思うのだけれども、2020年に向かっての人材育成であれば、今小学校の低学年だとか、幼稚園児だど  
か抱えている人たちが、これに参加したってなにも悪くないのです。でもそこをちゃんと支えてあげ  
られるような仕組みがこの予算の中に整って初めて小さなお子さんを抱えるお母さんたちでも、将来  
に向けてその自立する考え方の部分では大事なことだと思うのです。そういった支援があって初めて  
こういった緊急雇用も長期的な展望に立って物事考えていければ、そういう政策になっていくと思  
うのだけれども、そうでもしないと結局はその限られた人しかこういったことに与えられなくて、その  
限られ環境にある人なんてははっきり言ってそうそういるわけではないですよ。そういったもの全体  
的に物事考えていかないと、白老町の人材育成というのはどうなのと考えざるを得なくなっていま  
すよ。だからぜひこういった緊急雇用対策でも特に今回2020年度に向かってどういった人材を育て  
ていくのか、それ以降もそういった人材をどうやってまちとしては、国立博物館だとかいろいろな分  
野があって、それをどうやって使っていくのかということも長期的に考えていかないと、そのために  
今の現状にいる人たちを雇用するにあたっての支える支え方というものと一緒に考えていかないと、  
人というのは集まらないような気がするのだけれど、その辺についてぜひこういった予算がついた時  
には、人材を雇用するなどというそういう時にはぜひそういったところまで目を向けて考えていって

もらいたいと思うのです。ぜひまたこの枠の中で、実際それができるかできないかというのははっきり言ってまだわからないですよ。でもそれはちゃんと確認して、もしできるのであれば、もっと広い分野に声をかけて、やりがいを持たして、自立していけるお母さんもいるかもしれないから、そういつて人たちにも声をかけながらやっていける事業にしていってらもっと充実するものになるのではないかと思うのです。

○委員長（西田祐子君） 石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 今のご質問でございますけれども、こちらにつきましては金銭的にもできないということであったとした場合、今児童クラブ等整備されてきておりますので、その中で学校に行っている子供さん、保育園はちょっとあれなのですけれども、延長保育とかもありますから、ただしお金がかかるということも出てきますので、そういうことも含めてできる範囲のものはやっていけるかなと思っておりますし、それによりましてはそれぞれ関係する課がございますので、そちらとも連携をとりながらどういうふうに事業を組んでいくかということも今後考えていきたいというふうにも考えてございます。

○委員長（西田祐子君） 松田委員。

○委員（松田謙吾君） 私は先ほど虎杖浜、竹浦になぜと言ったのだけれど、白老だって元の木彫技術者いっぱいいるのです。今象徴空間だってできる。ペンダントだってフクロウだってつくった人いっぱいいるのです。前はいたのです。うずもれているのだ。金がないからできないし、売れないからできない。そういうものを新たにというより掘り起こしていくような特にこれに金をかけて、それこそ人材育成したらそうなのですか。そういう考え方だってこれからに向けて新たに、今まで確かに熊も売れなくなったし、ミンタラのあれもなくなった、だけれどまだ細々とやっている方々もいる、そこからまた新たなものを掘り起こしていくような人材だってあるはずなのです。そういうところで投資していくと長い目でまちもそこにちょっとからめていくと私は新しいまちおこしになっていくと思うのです。私前にずっと思っていて言ったことがあるのだけれど、竹浦だったら竹がある、竹籠をつくっていくとか、そういうものに目を向けて、新しいそういうものに目を向けていく、そこに金を投資していくということが大事なことなのです。ただこの虎杖浜、竹浦だけどうのこのだけ抜けないで、いっぱい人材がうずもれているのだから。

○委員長（西田祐子君） 石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 松田委員の意見でございますけれども、非常に貴重な意見ありがとうございました。この事業ではなかなかできないということもあるのですけれども、ほかにもたくさんいろいろな中小企業なり経済産業省の事業もございまして、そちらのほうもなかなか全部が全部把握できないところがございますので、勉強していきながらそういう事業を活用して今言われたような形も取れるような形で2020年以降も人がたくさん来て、それがおもてなしできるというような形のものごとっていければ非常にいいものができ上がっていけるのかなと、地域の経済も活性化するのかなというふうに考えますので、しっかりやらせていただきたいと思っておりますので、今後勉強させていただきたいと思っております。

○委員長（西田祐子君） 今委員さんから出て意見というのは、今回のこの事業ばかりではなくて、白老町として長期的なそういったきちとしたビジョンを持って、そういう人材育成のためにこういう雇用のこういうものが出たときにしっかり使えるような体制をつくっていただきたいということが一つだと思います。

私からちょっと何点かお伺いしたいのですけれども、まず人件費なのですけれども、これ1日に6,045円というけれども、これは決められた最低賃金になっているのですか。この最低賃金でならないといけない理由というのは何があるのですか。というのは申し訳ないのだけれど、ここで見ていたら人件費とかあるのだけれど、事務費だとかわけのわからないお金が266万9,000円、パソコンだとかレンタカーだとか、そういうのがぱっと結構ついているのに、現実的に緊急雇用といいながらなぜこれ、こんなに人件費低いのかというのがちょっと、でなければいけないのかというのがすごく不思議なのです。先ほどからいろいろ出ている意見というのはこの方々悪いのだけれど、一人頭平均すると年間144万8,000円、通勤費含めて、これしかももらえないのですよ。ということは緊急雇用となってきた場合に果たしてその金額でこれから1年間、これでいいのかどうなのかという部分も非常にあると思うのが一つです。もう一つ6月からやりますよね。これ竹浦・虎杖浜地区の観光に携わるといっています。国のほうとしましても4月から6月の間にやってくださいとなっています。1番大切なゴールデンウィークの時期にこの事業をやらないわけですね。はっきり言えばできないわけです。6月からとなってしまうたら。そうとなってきたときに果たしてこれがしかも北海道の中でも観光というのはやっぱりゴールデンウィーク過ぎたらパーッと北海道中が咲いて観光の花が咲くわけです。6月から始まったら遅いのではないかと私は思っているのです。そういうことからいってこれを本当に生かすための考え方として、もっと前倒して4月の予算はつくって大体目処もついているのだったら、3月中にも人材も募集してある程度課の中で予定も立ててそういうようなものも着々と予算組もして看板をつくったりとかなんとか、そういうようなものなんかもちゃんと打ち合わせした中で本当に4月からやれと言っているのだったら4月からできる体制で行くべきだと思うのです。それでもし道のほうとか国のほうがお金出せないよというのだったら、だったら何のために4月から6月にやりなさいと言っているのですかと反対に聞けると思うのです。その辺厳しいかも知れないですけど、ちょっと説明していただければと思います。石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） まず1つ目の賃金でございますけれども、こちらの算定の基礎は役場の事務職員の賃金の算定の基準で算定をしております。基本的にこの考え方としては事務職員という形の考え方をとっておりますので、こちらの形で算定をしているという状況になってございます。それと2つ目の時期を早くできないかということなのですけれども、こちらにつきましては今事業を取り組んで観光協会とも打ち合わせをしてやっているのですけれども、4月からすぐというのはなかなか難しいところがございます。まず1つとしては、今回これ事業を出しているのです。1つの採択してくださいという事業で、これから本申請に入ります。本申請はまたそのあとになるのですけれども、実際に本申請を出す前に議会の議決が必要になるものですから、その2月の議決が終わったあとに申請という形になりますので、なかなか4月1日にとかすぐの段階でできないというのが今の現状

でございます。ちょっと事務にタイムラグがあるのですけれども、ちょっとそこら辺のところはすぐに行けないというのが、今の現状でありまして、どうしてもこれから話を詰めていって中身を決めていっていろいろ計画等も作成しなければならない等がございますので、その部分につきまして観光協会と十分打ち合わせをして原稿を提出して、そこで申請するということになりますので、時間がちょっとかかるかなというふうに思っていますので、6月ということ、本当は今西田委員長が言われたとおり5月の連休前にこの事業を立ち上げて向かっていくという形が一番いいとは思っているのですけれども、そういうような事情でちょっと6月1日からという形を取らせていただきたいというふうに考えてございます。

○委員長（西田祐子君） 今の説明でこれ委員会協議会だから何だかんだは言えないのですけれども、でも基本として私はこれから観光協会と詰めるのはおかしいと思うのです。もうこれは最初に説明を聞いたのは1月21日です。北海道からの担当者2名出席、そうしたらすでに3月18日です。本来であれば、全部詰めていなければおかしいと思うのです。私白老町の今役場の1番ダメなところといったら申しわけないけれど、スピード感のないところじゃないかなと思うのです。せっかくこれだけの補助金を出してくれる、使えるというものがあるならば、やっぱりスピード感を持ってそして2月の末でも3月のはじめでも議会で議決もらってほしいというぐらいのスピード感を持ってやっていかないと、ほかの委員さん方がいろいろ言っている意見というのは反映されないのではないかなと思うものですから、ちょっときつく言わせていただきました。石井産業経済課長。

○産業経済課長（石井和彦君） 非常に言われたとおりスピード感がないと言われたような感じに、こちらのほうも反省しなければならないところがございますけれども、一つ弁解ではないですけども、先ほど言いましたけれどもこの事業を行う中で人材育成計画というのが作成しなければならないのですけれども、これについてはまだ道のほうもはっきりどういうものをつくってくれとか、こういう形のものを作成してほしいというものがまだこちらのほうに来ていないという状況なものですから、それも踏まえなければならないものですから、ちょっと今時間かかっているというのが現状でございます。本当にそういうのが前もってこちらのほうに来ているのであれば、手がけてなるべく早い時期に事業を進めたいというふうには考えていたのですけれども、今のような形もあるかなということでご理解をしていただきたいと思えます。

○委員長（西田祐子君） ほかの委員さんございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

---

## ◎閉会の宣告

○委員長（西田祐子君） 以上で産業厚生常任委員会協議会をこれで終了いたします。

（午後1時43分）